

自動車の品質管理で国際認証

合成樹脂などの加工、販売を手がけるウェーブブロック・アドバンスト・テクノロジー（ウェーブブロックAT、東京・中央）は自動車産業の品質管理に関する国際規格「IATF 16949」の認証を取得したと発表した。同社は自動車のエンブレムやホイールキャップ向けの金属調加飾フィルムを手がけており、米国メーカーの電気自動車（EV）などに採用されている。品質管理の国際認証の取得により、欧米向けの受注を増やしたい考えだ。

ウェーブブロックATの古河工場（茨城県古河市）と一関工場（岩手県一関市）、名古屋工場（名古屋市）の3工場が対象となる。同社は金属調加飾フィルムのほかに、モニターのほこりカバーに使われる2層シートなどを加工している。

金属調加飾フィルムは金属と樹脂を組み合わせたフィルムで、電波や光線を透過する特徴を持ち、自動運転のレーダーを通すこともできるという。例えば夜にエンブレムを光らせるようにしたいなど、EVに新しいデザインを求めるメーカーからのニーズがある。

また、金属調加飾フィルムは、めっきや塗装と比べて環境に配慮した設計を採用しており、今回の国際認証の取得により環境規制が高まる欧米での受注拡大をめざす。ウェーブブロックATの島田康太郎社長は「自動車メーカーなどのユーザーが求める高い要求に応えられるよう、品質管理レベルを一層向上させたい」と話す。（行方友芽）